

復興庁・内閣府
主催シンポジウム

熊本地震からの復興を考える -これからのコミュニティ再生を中心に-

東日本大震災・過去の災害の教訓を男女共同参画や災害時要援護者などの多様な視点から

1月21日(土)

参加費無料 100名様

12:30~17:00 (受付開始 12:00)

熊本市男女共同参画センター「はあもにい」多目的ホール
熊本県熊本市中央区黒髪3-3-10

第1部



基調講演

「仙台から熊本へ伝えたいこと」

講師：仙台市長 奥山恵美子

12:45
~13:45

第2部

事例発表及びパネルディスカッション

避難所が閉鎖され、被災者の多くが仮設住宅（借上型仮設住宅を含む。）に移行されて数か月。今「これから」の熊本のコミュニティ再生に必要な事項や復興の在り方、災害への備えについて、熊本地震、東日本大震災及び過去の災害からの取組・経験・知恵を共有しつつ、男女共同参画や、災害時要援護者などの多様な視点を取り入れて考えます。

コーディネーター：田村 圭子氏（新潟大学 危機管理室 災害・復興科学研究所（協力）教授）

パネラー：山屋 理恵氏（特定非営利活動法人インクルいわて理事長）

木須 八重子氏（公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長）

天野 和彦氏（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授）

中村 順子氏（認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長）

中園 三千代氏（くまもと県民交流館/パレア館長）

藤井 有貴子氏（熊本市男女共同参画センターはあもにい館長）

13:55
~16:40

第3部

展示ブース及び交流会 (会場 食のアトリエ)

主催：復興庁・内閣府（防災担当）

共催：内閣府（男女共同参画局）、熊本県、熊本市（予定）

協力：特定非営利活動法人全国女性会館協議会

お申込み・お問い合わせ

復興庁（シンポジウム担当）

TEL 03-6328-0274

URL <http://www.reconstrucion.go.jp/>

16:40
~17:00



○新潟大学危機管理室 災害・復興科学研究所(協力)教授

兵庫県生まれ。2005年京都大学・博士(情報学)。専門は危機管理・災害福祉。復興推進委員、国土審議会委員、元中央防災会議委員。避難所における良好な生活環境の確保に関する検討会委員(内閣府(防災))、災害時要援護者の避難支援に関する検討会委員(内閣府(防災))など。「被災者台帳を活用した生活再建支援プロジェクト(東京都)」などを企画・立案・実施。東日本大震災の復興推進委員の立場から、東日本大震災からの復興の約6年の歩み等について、好事例及び課題を共有する。

コーディネーター 田村圭子教授

●パネリスト●



山屋 理恵氏



木須 八重子氏



天野 和彦氏



中村 順子氏



中園 三千代氏

○特定非営利活動法人インクルいわて 理事長

よりそいホットライン地域センターいわてセンター長、いわて内陸避難者センター長(岩手県設置)を務める。2004年から、地方自治体の消費生活相談に携わり、庁内外との連携を重視した生活困難者支援を実施。東日本大震災直後には、被災者・ひとり親家族を支援する団体を設立し行政、民間、市民と連携しながら活動し、2015年からは岩手県男女共同参画センターを受託運営している。特に困難を抱えた人の「課題の解決」を中心に、すべての人が生きやすい「地域づくり」、「男女共同参画」そして「共生社会の実現」の視点から発言する。

○公益財団法人 せんだい男女共同参画財団 理事長

1978年仙台市役所に入庁し、生涯学習、男女共同参画、総合計画、市民協働などの分野を担当。2010年～2012年仙台市宮城野区長。東日本大震災発災時、宮城野区災害対策本部長として避難所開設をはじめ、被災者支援の初動時対応から仮設住宅移転、集団移転に向けたコミュニティ形成などに取り組む。2013年3月仙台市役所退職。現在は(公財)せんだい男女共同参画財団理事長。3.11の前年、仙台市総合防災訓練で発表された「岩切・女性たちの防災宣言」、被災地第一号の「みんなの家」、これらに関わる仙台市民のこれまでと今を伝え、本企画テーマを探る一助としたい。

○福島大学つくしまふくしま未来支援センター 特任准教授

福島県職員として、生涯学習や男女共同参画の分野に従事。東日本大震災では、福島県内最大規模のビッグバレットふくしま避難所の責任者として運営に携わる。これまで、同所で生まれたおだがいさセンターをモデルに、仮設住宅・県外避難の支援の仕組み構築と他市町村への水平展開に尽力。これまで、福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授として、被災者の生活支援、コミュニティ形成等の調査・研究や現場での支援にあたる。大規模避難所における、被災者の自治形成や、女性の専用スペース、交流の場としてのサロンなどの取組、閉所後のおだがいさセンターでの取組について、熊本での支援を踏まえながら今後の災害時の対応における課題や対応策について発言する。

○認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター(CS)神戸 理事長

1967年短大卒業後、大手総合商社に勤務。1970年に広告代理店に転職。第2子出産後、仕事と育児の両立が困難になり退職し、神戸に引っ越し。1982年、専業主婦であったが、このままではいけないと思い、神戸ライフ・ケア協会に参加し13年間活動。1995年の阪神・淡路大震災を契機として独立し、震災当初の水汲みボランティアから、東灘・地域助け合いネットワークを立ち上げる。1996年にNPO法人CS神戸に移行し、理事長として活躍。被災者の「ありがとうの言い疲れ」を目の当たりにし、被災者であっても経験やスキルを活かし、お礼を言われる側になることが必要と痛感。「誰もに、居場所と役割があるまち」を目指した復興の取組を紹介する。

○くまもと県民交流館パレア 館長

1980年12月熊本県入庁。流通政策、企画調整、社会教育、健康福祉政策、地域振興などを経て、健康福祉部社会福祉課長、同部子ども未来課長を歴任。14年から環境生活部県民生活局長を務め、16年3月退職。同年4より現職に就く。熊本地震において、県内の復興支援を行う中で、男女共同参画の視点からの気づきや、これからの被災者の生活再建に向けて課題と思われることなどについて発言する。



藤井 有貴子氏

熊本市男女共同参画センターはあもにい 交通アクセス

所在地:〒860-0862 熊本市中央区黒髪3丁目3番10号 Tel:096-345-2550 Fax:096-345-0373

※センター裏の駐車場は有料(200円/1回)です。
※無料駐車場は約80台です。
なるべく公共交通機関の利用をお願いします。



○熊本市男女共同参画センターはあもにい 館長

1991年、熊本初の地域密着型育児情報誌の発刊、編集を経て子育てや医療に関するコーディネート等に取り組む。2003年、女性が子育てをしながら自分の能力を活かせる職場づくりを目指して、有限会社ミューズプランニングを設立。代表取締役。現熊本市男女共同参画センター館長。熊本地震で避難所となった熊本市男女共同参画センター「はあもにい」での取組や男女共同参画の視点から行ったことなどについて発言する。

参加申込方法

▶下記の項目をご記入の上、復興庁(シンポジウム担当)宛に【1月13日(金)まで】にお申し込みください(参加者多数の場合、抽選となります)

Email: fukkocho.danjohan@cas.go.jp FAX番号: 03(6328)0299

郵送先: 〒107-0052 東京都千代田区霞が関3-1-1中央合同庁舎4号館10階
復興庁(シンポジウム担当)

お名前(フリガナ)	性別 男・女	年齢 10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代以上
住所		
連絡先電話番号	メールアドレス	
ご職業	会社員・公務員・自営業・パート・アルバイト・NPO等・学生・その他	ご所属
車椅子利用	有・無	託児利用 有・無
手話・要約筆記	有・無	
託児希望(有の場合)	お子さんの名前	年齢
留意事項		
※託児希望、また、手話、要約筆記が必要な方は、1月10日(火)までにお申し込みください。 ※託児詳細 対象年齢 1歳半～就学前・定員12名 ※ご記入いただいた個人情報は当シンポジウム実施の目的以外には使用いたしません。		